

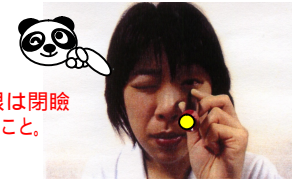
準備物 **ペンライト**

定量的眼位検査 他覚的斜視角検査(Hirschberg法)

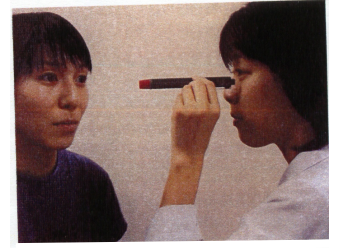
目的 大まかな近視の顕性斜視角の他覚的定量

光源の位置に注意!! 健眼が中心固視で光源を注視する十分な視力(0.1前後)があればOK.

半暗室にて被検者の正面に位置し、検者の観察眼と光源を同軸にして約33cmの距離にて被検者の鼻根部に照射し、光源を注視するように指示する



他眼は閉眼すること。



眼科プラクティス86 P24

長所

潜伏眼振のある人の測定ができる。
乳幼児に簡便に行える。
斜視眼の視力が不良でも可能である。

短所

角を考慮しなくてはならないので、正確とは言えない。
僅かな斜視は見逃しやすい。
交代視のすばやいや、小眼球・小角膜の時は判別が困難である。

両眼の瞳孔中央に角膜反射があるか?

YES

NO

両眼の瞳孔中央に角反がある

角反の位置: 瞳孔中央 | 瞳孔中央
眼の動き: 動揺(-) | 動揺(-)

例) 左眼の場合

一眼の瞳孔中央に角反はない

瞳孔中央 | 瞳孔中央でない
動揺(-) | 動揺(?)

両眼の瞳孔中央に角反はない

瞳孔中央でない | 瞳孔中央でない
動揺(-) | 動揺(-)

定性検査

瞳孔中央が角反より外側

瞳孔中央が角反より内側

瞳孔中央が角反より上側

瞳孔中央が角反より下側

正位(広義) ortho

外斜視 XT

内斜視 ET

上斜視 HT(L/R)

下斜視(固視眼のHT)(R/L)

角異常・黄斑偏位など

近見なので略語に 'ダッシュ' を付ける所もある。

上下斜視の記載は色々あるので病院の記載に従うこと。

定量検査 * 左眼内斜視(赤線):外斜視(青線)の場合

角反が角膜縁

角反が瞳孔縁と角膜縁の間

角反が瞳孔縁

角反が瞳孔中央と1mmの差

散瞳気味だと誤差あり。

眼を图示して角反の位置を併用する所もあり色々。

記載例
()の中は新換算値で1mm = 12°とした場合。

Hirschberg法 +45°(+68°) ET
-45°(-68°) XT
(固視交代不可 R-fix)

Hirschberg法 +30°(+50°) ET
-30°(-50°) XT
(固視交代困難 R-fix)

Hirschberg法 L) +15°(+25°) ET
-15°(-25°) XT
(固視交代可 R>L fix)

Hirschberg法 L) +7°(約12.3°) ET
-7°(約12.3°) XT
(固視交代可 R=L fix)

この検査時、流れで固視検査も併記する。詳細は13固視検査で。